

新・大阪府地震防災アクションプラン～令和3年度の進捗結果<まとめ>～

新・大阪府地震防災アクションプランについて

- ▶同プランは、平成23年3月に未曾有の被害をもたらした東日本大震災の教訓などからの新たな知見に基づき、南海トラフ巨大地震の被害想定に対応する新たなハード・ソフト対策の強化に取組むため、平成27年に令和6年度までの10年間の計画として策定。
- ▶さらに、平成30年度大阪北部地震、台風第21号、さらには令和元年度の台風第19号などの度重なる災害からの教訓により、各アクションのさらなる取組み強化や、これらの災害より顕在化した課題に対応するため、新たなアクションを策定するなど、大阪府の災害対応力を強化。
- ▶各アクションについては毎年度、進捗状況や目標達成度の評価を行い、その見直し・改善をすることで着実にプランを推進。

各アクションの分類について

	具体的数値目標があるもの	数値目標が設定できないもの
大阪府自ら取組むアクション	<1 4アクション> I 府のハード施策として推進しているもの 例) 防潮堤の津波浸水対策 水門の耐震化の推進 ため池防災・減災の推進 など	<4 8アクション> II 府のソフト施策として推進しているもの 例) 大阪880万人訓練の充実 災害医療体制の整備 帰宅困難者対策の確立 など
市町村・民間団体の取組みを支援するアクション	<9アクション> III 市町村・民間団体のハード施策を支援することで促進を図るもの 例) 民間建築物の耐震化 鉄道施設の防災対策 など	<2 9アクション> IV 市町村・民間団体のソフト施策を支援することで促進を図るもの 例) 地下空間対策の促進 災害廃棄物の適正処理 など

令和3年度の各アクションの評価結果(単年度評価)

▶各アクションの評価は、取組み内容の進捗・達成状況などについて、関係部局による進捗管理(PDCA)シートの精査とともに、ヒアリング等を実施し、総合的に判断。

各アクションの進捗状況評価

- ① 概ね計画通りに進んでいるアクション **100アクション**
- ② 計画どおり進んでいないアクション **0アクション**

主なアクションの進捗状況

アクション1 防潮堤の津波浸水対策の推進【都市整備部】

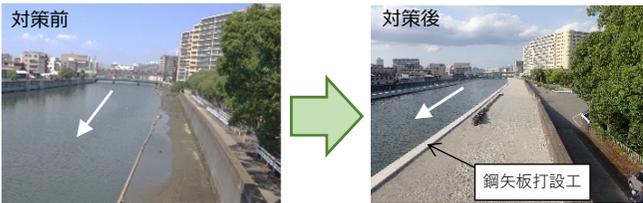
アクションの内容

- ▶防潮堤の基礎部にある液状化層を固化して変位・沈下をおさえる液状化対策工などの耐震・液状化対策を実施。

R3年度実績

- ▶木津川(L=1.6km)、六軒家川(L=0.7km)、安治川(L=0.1km)
尻無川(L=0.1km)

合計2.5kmの対策を実施



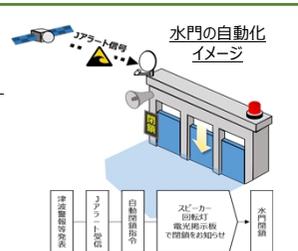
令和3年度末：全体33.4km / 34.0km

【河川】西大阪地区：21.4km / 22.0km
泉州・寝屋川流域地区：対策完了
【海岸】対策完了

関連アクション2 (水門の耐震化等の推進)

- ▶更新する安治川水門の詳細設計着手
- ▶水門の高度化(遠隔操作・自動化※) 六軒家川水門、正運寺川水門の完了

※水門の自動化：津波警報等が発表され、衛星からアラートにて情報を受信した際に水門を自動閉鎖



アクション8 ため池・減災対策の推進【環境農林水産部】

アクションの内容

- ▶大阪府ため池防災・減災アクションプランに基づき、対象ため池の耐震診断を計画的に実施するとともに、診断結果を踏まえ必要な耐震対策を実施。
- ▶ソフト対策も含めた総合的な減災対策を推進するため、対象ため池の所在市町村に対して、ため池ハザードマップの作成、住民周知及び活用を働きかける。

R3年度実績

- ▶大阪府ため池防災・減災アクションプランに基づく耐震診断を**59箇所実施**
- ▶診断結果を踏まえた低水位管理や耐震補強工法の検討や対策工を実施
- ▶市町村において**ハザードマップの作成、住民周知及び活用を38箇所実施**

■大阪府ため池防災・減災アクションプランの改定(令和4年3月)

計画期間

- ▶令和4年度から令和13年度

3つの対策強化方針

- ①ハード事業による防災・減災対策の加速 ～対策工事の工期短縮と費用縮減～
- ②洪水調節機能の強化による下流域の安全・安心の確保 ～地域を守る流域治水の強化～
- ③デジタル技術等を活用した、ため池管理の推進 ～ため池管理の省力化～

防災・減災対策の主な取組内容

ハード対策

- ▶耐震診断と対策の実施
- ▶農業利用されていないため池の廃止
- ▶全面改修・部分改修による対策の実施



ソフト対策

- ▶ハザードマップの作成支援
- ▶防災重点ため池点検調査の強化※
- ▶デジタル技術を活用したため池管理の推進

洪水調節機能の強化

- ▶洪水調節容量確保のための低水位管理の推進
- ▶ため池を活用した面的な治水対策の推進

※防災重点ため池：決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池

アクション11 学校の耐震化【教育庁】

アクションの内容

- ▶府立学校については「大阪府住宅・建築物耐震10ヵ年戦略プラン」に基づき平成27年度に耐震化完了。
- ▶地震によるブロック塀の倒壊で死亡事故が発生し、ブロック塀の安全性が問われることとなったため、調査の結果を踏まえ、不適合のあったブロック塀について優先順位付けを行い順次撤去等を行う。

R3年度実績

- ▶府立学校のブロック塀のうち、カテゴリ④の20校の撤去改修を実施
→**カテゴリ①～④全てのブロック塀の撤去(131校)が完了!**

カテゴリ①～④

- ①「優先対応及び危険」と判断されたブロック塀(86校)
- ②高さ2.2m～3.0mかつ、劣化等が認められるブロック塀(14校)
- ③高さ2.2m～3.0mで、劣化等がないブロック塀(11校)
- ④カテゴリ①～③以外で劣化が認められるブロック塀(20校)

改修前(イメージ)



改修後(イメージ)



- ▶関連アクション14(民間ブロック塀の安全対策)
▶民間の危険なブロック塀の除却補助を580件実施

